

ブナシメジ (*Hypsizigus marmoreus*) 由来ポリテルペン (Hypsiziprenol A9) の腫瘍増殖抑制作用

ブナシメジ由来のポリテルペン画分 (SBS) を担癌動物に、経口投与すると腫瘍増殖抑制が見られることを昨年報告した。本報では、この画分の種々の癌細胞に対する細胞傷害性、精製 SBS を IMC 担癌マウスに経口投与した際の腫瘍増殖抑制作用、及び種々のきのこ培養菌糸体によるポリテルペン産生の有無についても報告する。

ポリテルペン画分は、ブナシメジ子実体粉末 3kg から得た酢酸エチル抽出物を、シリカゲルカラムで分画して得た。このうち 500mg を再度シリカゲルカラムにかけて分画後、逆相カラムで分画し、主成分 (精製 SBS) 260mg を得た。NMR 分析の結果、本成分は Hypsiziprenol A9 (A9) であると判明した。上記のアセトン溶出画分は、マウス S-180 (24h 後の細胞傷害活性:82.1%) や IMC 細胞 (24h 後:81.7%) だけでなく、ヒトリンパ腫 U937 細胞 (24h 後:94.0%) およびヒト胃癌 MKN45 細胞 (48h 後:38.3%) に対しても傷害活性を示した。また、A9 を HL-60 細胞培養液に添加 ( $20\mu\text{M}$ ) したところ、6h 後に 30.1%の細胞がアポトーシスを起こしていた。A9 による腫瘍増殖抑制は、腫瘍細胞にアポトーシスを誘発させた結果である可能性が示唆された。